

はじめに

「このままでいいのだろうか・・・」

あなたは、今、仕事や人生について迷っていないだろうか？

迷ったときほど焦ってしまい、いろんなことを考え、次から次へといろんなことを試し、さまよってしまおう。

いろいろな行動しているのであれば、まだ良いかもしれない。

迷いが膨らみ、考えすぎて、何も手がつかなくなってしまう。全く突拍子もない、決断をしてしまうかもしれない。と結局何もかも中途半端になってしまうのは一番良くない。

実は私自身、よく悩み、迷ってしまうほうだ。前職のサラリーマン時代、そして起業独立してから今に至るまで、迷い、悩みの連続。

今とまったく関係ない部署への異動、まったく共通性のない会社への転職、・・・など

うまく行かない、悩んでいるときは、隣の芝生がよく見える。

今回、クラブ作り一筋60年の坪田名人と、プロフェッショナルリズムについての本を出すにあたり、今の事業についていろいろ悩んでいる最中であつた。

名人の大阪の自宅に通い、あるいは何度も電話取材をし、名人のお話を伺い、過去を振り返り、自分の話に置き換えながら、一流の仕事人のエッセンスに、悩みの解決の糸口を見つけた。

続けることの大切さだ。

修行半年の名人などいない。

名人になるためには、一流になるためには、ある程度は続けなければいけない。

1日1日、1年1年続けていくことで、小さな力が積み重なり、それが、足し算でなく

掛け算のように大きな力に変わっていく。

本書は、2008年に引退するまで、15歳からクラブ作り一筋60年、日米野球クラブ界の第一人者として活躍してきた坪田信義名人の言葉を織り込みながら、続けることの大切さをはじめとした、プロフェッショナルリズムのエッセンスをまとめたものだ。

今まさに、時代はめまぐるしく変化している。混乱の時代の真っ只中と言ってもいいだろう。

『新しい儲け方のヒント』（日本経営合理化協会出版局）の著者で新事業経営コンサルタントの高島健一さんは、ある勉強会にてこんなことを言っていた。

「ツイッターのようなリアルタイムメディアが登場して以来、ブームがたった1日で終わってしまうということが頻繁に起きている。流行が凄いい勢いであつという間に広がり、そしてすぐに終わってしまうように、流行がきわめて短期的だ。人々は次から次へ流行を追いかける。

しかし、そんな流行が短期的に、めまぐるしく変わっていく時代だからこそ、これから

は、そんな短期的な流れに惑わされない、しっかりとしたもの、きちんとした軸を持つことが重要になってくる。その後の時代は、長期的なもの時代の時代になる」。

この本でお伝えする、坪田名人から学んだプロフェッショナルリズムのエッセンスは、まさにそうした、「しっかりとしたもの」「軸を持つもの」といえる。

そしてそれは「続けることで得られてきた力」の数々だ。

移り気にあれこれと飛びつくのではなく、しっかりと腰をすえて身につけたものだ。

短期的なことに慣れすぎている我々は、すぐに結果が出ないと不安になる。でも、心を込めて、打ち込んでいるときつと光が見えてくる。

坪田さんの話はそんなこと教えてくれる。

これから続く混乱の時代に、グラフ作り60年のこの名人の教えが、みなさんの仕事、生活、人生の中での何かのきっかけになれば幸いだ。